

アンケートにみる

県内の小・中学生の学校五日制

編 集 部

本年度から学校週五日制が完全実施されました。これまで月二回の試行期間があつて行政もそれなりの対応はしてきていますが、全部の土曜日が休みになつた子どもたちはこの制度をどのようにうけとめ、また実際にこの休日をもどのように過ごしているでしょうか。研究所では、その実態を把握し今後必要な対応策を講ずる上でも役立てたいと考え、経過三か月の時点で制度についての子どもたちの意識と、土曜日をどのように過ごしているかの実態調査をしました。

調査は、教員の会員に協力していただき担任するクラスの子どもたちを対象にしてアンケート形式で行いました。ただ、七月という学校としてはことさらに多忙な時期と重なつたために、締め切り日までの回収サ

ンプルは小学校七クラス分（有効回答数一九二）、中学校二クラス分（同五七）にとどまりました。かならずしも十分な数とはいえませんが、実態の一端は把握できるかと思ひます。なお、子どもたちの考えも知りたいと思ひ、併せて若干の父親、母親たちからもこの制度についての考えを聞きしました。

一、六人以上の家族が四四%

土曜日には子どもだけ、は三・六%

まず、同居の家族人数と土曜日に在宅する家族について尋ねました。次ページの表Ⅰ-Ⅰは小・中合わせた二四八サンプルを家族の人数で分類したものです。

アンケートにみる県内の小・中学生の学校五日制

I-1 サンプル児童・生徒の家族の人数（本人も含めて）

	2人様	3人様	4人様	5人様	6人様	不明	計
人数	8	8	64	58	109	1	248
%	3.2	3.2	25.8	23.4	44.0	0.4	100.0

「核家族化」などという言葉もありますから個々の家族の数は昔とは違ってかなり少ないだろうと予測していましたが、六人以上という家族が四四%を占めています。逆にもっと多いだろうと思われた二人、三人家族は合わせても六・四%でした。

I-2 土曜日、家にいる家族は？（小学生=191人）

子どもだけ	父母（どちらかでも）	祖父母（どちらかでも）	他の家族	家族以外の大入
7人	137	106	9	3
3.6%	71.7	55.5	4.7	1.6

I-3 通塾の状況（小=191人，中=57人のうち）

	語・算	英 語	お稽古	スポーツ	学童
小学生	34人	14	64	72	1
	17.8%	7.3	33.5	37.7	0.5
中学生	(学習塾) 27		10	18	
	47.4%		17.5	31.5	

この結果は、土曜日に子どものほかに家族の誰

が家にいるかという次の調査結果にも連動しているように思えます（表I-2）。これは小学生だけに尋ねたものですが、父母（どちらかでも）がいるという回答が七一・七%を占めました。また、複数回答ですからそれと重なるケースもありますが祖父母（どちらかでも）がいるという回答が五五・五%あります。一方、子どもだけしかいないという回答は三・六%でした。ちよつと意外な感があるかもしれませんが、今回の調査では新潟市など都市部のサンプルを回収できなかったことから以上のような結果が出たとも思われます。

ちなみに、村上市教育委員会が二〇〇二年一月に、「完全学校五日制が実施されることに伴い、土曜日に保護者が家庭にいない児童の実態を把握し、今後の基礎資料とする」ために、市内七校の小学生一八八一人全員に聞き取り調査をした資料があります。それによりますと、「父母とも土曜日は仕事にでかけていて不在」という子ども（同資料では「留守家庭児童」）は全体の三一・九%です。つまり約七〇%の家では父母のどちらかは在宅しているということになりますから、私たちの今回の調査の数値とほぼ同じということになります。また、「土曜日は『ほとんど』あるいは『いつも』家に大人の人がない」という回答は七・〇%



です。これは私たちの調査の数値(三・六%)よりは高い結果になっています。

表Ⅰ-3は、現在の塾通い(土曜に限らず)の状況を調べたものです。小学生の四分の一、中学生の半数近くが学習塾に通っているということになります。小学生一〇〇人のうちの七人は英語の塾に通っているという実態も見えてきました。

二、学校五日制、七七%が「うれしい」

ただし「楽になった」は小中とも四割

下段の表Ⅱ-1をみてください。小学生の七七%が「五日制になってうれしい」と答えています。「休みが増える」ということは自分の自由時間が増えるということですから嬉しいことに違いありません。しかし表Ⅱ-2で分かるように、学校での勉強が「楽になった」という子は四割ちよつとです。「嬉しくない」と答えた子は三・七%だったのに、「勉強が窮屈になった」と答えた子が一四%もいます。

中学生の場合は「五日制になって良かったか」「勉強も含めてあなたの生活は楽になったか」と設問しました。「楽になった」という回答はほぼ小学生と同じ

く四割です。「五日制になって良かった」という回答は半数以下の四七・四%にとどまりました。はっきりと、五日制になって「よかったとは思わない」という生徒が一七・五%います。これは四〇人学級で七人という割合です。なお、五日制になって「窮屈になった」という回答が七・一%ありました。

三、土曜日は友達と遊んでいる
小一三六%、中一六〇%

表はありませんが、五日制の完全実施後、塾通いが増えたと思うか尋ねてみました。小・中学生とも三割近くが「増えたと思う」と答えましたが、次ページ上

表はありませんが、五日制の完全実施後、塾通いが増えたと思うか尋ねてみました。小・中学生とも三割近くが「増えたと思う」と答えましたが、次ページ上

Ⅱ-1 五日制実施について

小学生	うれしい	うれしくない	中学生	良かったと認	思わない
	147人 77.0%	7 3.7		27人 47.4%	10 17.5

Ⅱ-2 五日制で学校の勉強も含めて生活は楽に……?

小学生	勉強になった	窮屈になった	中学生	楽になった	窮屈になった
	82人 42.9%	27 14.1		24人 42.1%	4 7.1

アンケートにみる県内の小・中学生の学校五日制

Ⅱ-4 5日制実施後、新しくやり始めたことは？

	学習塾に通い始めた	スポーツクラブに通い始めた	音楽や絵の教室に通い始めた	家での勉強の時間を増やした	その他	合計
小学生	8人 4.2%	21 11.0	8 4.2	3 1.6	3 1.6	43人 22.5%
中学生	2人 3.5%	4 7.0	0	5 8.8	4 7.0	15人 26.3%

※その他は (小学生) 習字教室、太の散歩 など
(中学生) 友達との交友、趣味CD など

Ⅱ-5 土曜の休みが増えてから家の仕事(家事を含む)を多くするようになったか

	小学生191人中	中学生57人中
多くするようになった	85人 44.5%	13人 22.8%

Ⅱ-5) ます(表としてい) になった、するよりも多、れまでもて)をこ、事を含め、仕事(家)の中、小学生の二・八%が、家での勉強の時間を増やした」という回答が九%近くありました。

段に掲げた表Ⅱ-4に示すように、実際には新たに学習塾に通い始めたという回答は小学生四・二%、中学生三・五%です。それに対して小学生では、新たにスポーツクラブや音楽教室などに通い始めたという子が一五%います。中学生では、「家での勉強の時間を増やした」という回答が九%近くありました。

Ⅱ-6 土曜日をどのように過ごしているか(2期別)

	(小学生)		(中学生)	
友達と遊んでいる	68人	35.6%	34人	59.6%
友達と勉強している			4	7.0
親戚や知り合いの家に行く	15	7.9		
学童保育に行っている	1	0.5		
学習塾に行っている	5	2.6	2	3.5
お稽古塾(教室)に行っている	7	3.7	1	1.8
スポーツクラブに行っている	44	23.0	16	28.1
子ども会に参加している	7	3.7		
図書館に行っている	15	7.9	0	
公民館や児童館に行っている	9	4.7		
家で勉強している	17	8.9	9	15.8
テレビをみたり本を読んだり	52	27.2	16	28.1
パソコンやゲームで遊んでいる	40	20.9	7	12.3
インターネットに興じている			10	17.5
家族と過ごしている	26	13.6		
家事の手伝いなどしている			1	1.8
ペットと遊んでいる	25	13.1	5	8.8
することなく、ぶらぶらしている	14	7.3	1	1.8
その他	9	4.7	10	17.5

表Ⅱ-6は、子どもたちが実際に土曜日をどのように過ごしているか尋ねた結果です(二項目選択)。小学生の三五・六%、中学生では五九・六%の子が「友達と遊んでいる」と答えています。小学生の二三・〇%、中学生の二八・一%がスポーツクラブに行く日と土曜日に設定していますが、これはごく自然なことでしょう。中学生ではこのほかに部活なども挙げられています。一方「テレビをみたり本を読んだりして



る」(小一・二七・二％、中一・二八・一％)、
 「パソコンやゲームで遊んでいる」(小一・二〇・九％、中一・インターネットも含めて二九・八％)など、家でひとりで過ごしているケースも目立ちます。全体からみれば少ない数値なのですが「ベットと遊んでいる」(小一・一三・一％、中一・八・八％)「することなく、ぶらぶらしている」(小一・七・三％)というケースはちょっと心配に感じられます。

三、親がらみた学校五日制

学校の完全週五日制を子どもたちの親はどのようにみているでしょうか。小学生および中学生の子どもを持つ何人かの親たちの声を聞くことができました。

まず、学校五日制は

- ①子どもの生活の上でプラスになっていると思うか
 - ②親の生活にとってプラスになっていると思うか
 - ③学校にとってプラスと思うか
- の三点について尋ねました。回答とそれぞれの理由をまとめたのが、下段の表Ⅲ-1です(回答者一七人)。

Ⅲ-1

①5日制は子どもの生活にプラスか

プラスと思う 9人	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの生活にゆとりができた ・子どもが家族と過ごす時間が増えた ・地域や行事に参加しやすくなった ・塾や地域のクラブに行く時間が減った 	(4人) (1人) (2人) (2人)
そうはならない 8人	<ul style="list-style-type: none"> ・生活にけじめがなくなってきた ・テレビやゲームで過ごす時間が増えた ・することなく、ぶらぶらして気が散る ・かえってゆとりがなさそう 	(2人) (2人) (3人) (1人)

②5日制は親の生活にとってプラスか

プラスと思う 7人	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもと接する時間が増えた ・仕事の手伝いをさせる時間が増えた ・家で勉強をみてやる時間が増えた ・その他 	(6人) (0人) (0人) (1人)
そうはならない 10人	<ul style="list-style-type: none"> ・親は休めないで子どもの生活が心配 ・塾にやったりで経済的負担が増えた ・土曜に休むので収入が減った ・その他(これまであまり変わらぬなど) 	(7人) (1人) (0人) (2人)

③5日制は学校にとってプラスと思うか

プラスと思う 4人	<ul style="list-style-type: none"> ・先生にゆとりができ授業の準備ができる ・子どもにゆとりができ勉強がすすむと思う ・学校の施設が地域に開放されるようになる 	(1人) (1人) (2人)
そうは思わない	13人	

学校週五日制が子どもの生活にプラスになっているかどうかの評価は、「子どもの生活にゆとりができた」とする見方がある一方で、「生活にけじめがなくなつた」「テレビやゲームで過ごす時間が増えた」「することなくぶらぶらして気が散る」という受けとめ方があり、それぞれ9対8と拮抗しています。親の生活にプラスかどうかの評価でも、「子どもと接する時

Ⅲ-2 五日制の実施で何らかの心配があるか

心配がある	・授業時数が減った ・ぶ通の他 ・その他	が過ぶ通の他 が過ぶ通の他 が過ぶ通の他	減った 減った 減った	たの子が たの子が たの子が	のゲも のゲも のゲも	でーは減 でーは減 でーは減	学ムゆら 学ムゆら 学ムゆら	低過りた 低過りた 低過りた	下を失 下を失 下を失	心配増えた 心配増えた 心配増えた	(4人) (2人) (5人) (2人)
心配はない	4人										

Ⅲ-3 今後必要な対応は…… (複数回答)

・学童保育 ・伝統的 ・子ども ・児童そ ・その他	・学文の ・育文の ・育文の ・育文の ・育文の	・増えたい ・増えたい ・増えたい ・増えたい ・増えたい	・股子活 ・股子活 ・股子活 ・股子活 ・股子活	・土もを ・土もを ・土もを ・土もを ・土もを	・日能活 ・日能活 ・日能活 ・日能活 ・日能活	・開承に ・開承に ・開承に ・開承に ・開承に	・所せの ・所せの ・所せの ・所せの ・所せの	・……な ・……な ・……な ・……な ・……な	・……の ・……の ・……の ・……の ・……の	・……成 ・……成 ・……成 ・……成 ・……成	・……育 ・……育 ・……育 ・……育 ・……育	・……会 ・……会 ・……会 ・……会 ・……会	・……な ・……な ・……な ・……な ・……な	5人 4人 4人 4人 4人 4人 4人 4人 4人 2人
---------------------------------------	--------------------------------------	---	--------------------------------------	--------------------------------------	--------------------------------------	--------------------------------------	--------------------------------------	--------------------------------------	--------------------------------------	--------------------------------------	--------------------------------------	--------------------------------------	--------------------------------------	--

間が増えた」というのに対して「(土曜は)親が休めないのも子どもの生活が心配」という意見があり、これも6対7に見方が分かれています。そして、学校にとつてプラスと思うかという問に対しては、一七人中一人が「そうは思わない」と答えました。

次に、この制度の実施で何らかの心配があるかどうかを尋ねました。表Ⅲ-2がその回答のまとめです。

「心配がある」と答えたい人が一三人います。「授業時数が減ったので学力の低下が心配」「塾通いが増えて子どもは逆にゆとりを失った」などで、いずれも今日の文部行政の本質にかかわる問題を突いているように思われます。

表Ⅲ-3は、今後どのような対応が必要と考えるかを挙げてもらいました。説明は省略し

ますが、この制度を本来あるべき姿として定着させていく上では欠かせない対応策ばかりといえます。行政、あるいは地域への重要な提言として受けとめなければならぬでしょう。

おわりに

冒頭でも述べたように、小・中学生を対象にした調査結果には新潟市など都市部の状況を知るデータが含まれておりません。したがって、いわゆる核家族が多い地域の子どもの土曜日の生活を把握することはできませんでした。ただ、村上市教育委員会が調査した資料の一部と私たちが今回実施した調査結果には傾向としてかなり共通した部分がありますから、県全体の平均的な地域の実情を窺い知るよすがにはなるかと思えます。また、少ないデータですから断定はできないにしても、ここに紹介した学校五日制に対する親たちの声も、他の多くの親たちの意見と重なる部分が多いのではないかと考えられます。

※この調査に使用したアンケート用紙をご希望の方は研究所事務局にお問い合わせください。

(片岡 弘)